

審査結果の要旨

(1) 研究の目的に意義や独創性があるか。

本研究は、近年、社会科学を中心に注目されているナラティブ・アプローチの方法論に関して、保育実践を対象として実証的に探究したものであり、未だ方法論的に未整備な状況のなかで、独自の方法論を考案し実施した点に研究上の意義があり、また、独創性が認められる。具体的には、従来、構造分析に比べて不十分であった相互作用分析を試みた点、従来、質的研究に偏ってきた方法論に量的研究を組み合わせた点、言語能力が未熟な幼児を対象にして研究対象を拡張した点、これに伴い、未分化な状態にあるナラティブを視野に収めた点の4点をあげることができる。以上の4点は、これまで未開拓の領域といえるものであり、この領域を実証的に検討した点に意義と独創性が認められる。

(2) 研究の方法は当該学問分野において妥当なものか。

本研究は、ナラティブ・アプローチに関する先行研究を詳細にレビューした後に、4つの課題を抽出し、4つの調査によってこれらの課題に挑戦することで構成されている。第1の調査では、保育園における連絡帳の質的・量的分析が行われ、第2の調査では、描画をめぐる保育者と子どもの会話分析が行われ、第3の調査では、描画をめぐる保育者と子どもの相互作用分析が行われ、第4の調査では、創作劇活動を素材に保育者と子どもからなる集団的相互作用のエスノグラフィック分析が行われている。いずれも社会学的分析手法に則ったものであり、また、研究倫理的にも妥当な方法に基づくものといえる。

(3) 研究資料やデータの収集と分析が適切になされているか。

第1の調査では、連絡帳に書かれたセンテンスの抽出方法に工夫を凝らして量的分析を可能にしている。第2および第3の調査では、保育者と子どもの会話の録音データをすべてトランスクリプトにして詳細な会話分析と相互作用分析を行っている。第4の調査では、集団場面での発話を網羅した録音データに基づきエスノグラフィックの手法を用いて分析をおこなっている。いずれも、調査目的に適合したデータの収集と分析が行われている。

(4) 研究の考察と結論が妥当であり、学術的な水準に達しているか

結論は以下のとおりである。第1の調査では、連絡帳における保育者の記述の仕方と保護者による信頼の度合いが相関することを見出し、保育者による発達的なナラティブの生成の重要性を指摘している。第2の調査では、子どもの言語能力に応じた聴き方を「ナラティブ・ストラテジー」としてとらえ、それがナラティブの生成に大きな影響力をもつことを見出している。第3の調査では、「ナラティブ様式の認識」を助ける関わりをしたクラスとそうでない関わりをしたクラスを比較して、基底線表現の出現の度合いに有意差がみられることを見出し、ナラティブ様式の認識を促すことの重要性を明らかにしている。第4の調査では、創作劇に関するさまざまなアイデアが時間をかけてひとつのストーリーに収斂していく過程を促進するうえで、ナラティブ環境が重要な役割を果たすことを明らかにしている。さらに、これらの4つの調査から得られた知見

が保育実践にもたらす実践的意義についても考察している。いずれも、丹念なフィールドワークと詳細な分析なしにはなしえないものであり、こうした手続きを経て導かれた考察と結論は社会学領域の学術的な水準に達していると判断できる。

(5) 取得学位にふさわしい意義や成果が認められるか

本研究は、研究の目的、研究の方法、データの収集と分析、考察と結論のいずれにおいても、一定の水準に達している。社会学および関連領域におけるナラティブ・アプローチの課題を明らかにした点、および、それらを克服するために、ナラティブ・ストラテジー、ナラティブ様式の認識、ナラティブ環境といった新しい概念を用いて方法論を洗練した点に研究上の重要な意義が認められる。また、これらの知見を単に方法論上の議論に終わらせずに、これらが保育実践にもたらす実践的意義についても考察している点で教育学上の意義も認められる。以上の諸点において、本研究は、博士（教育学）の学位にふさわしいものと判断する。